

令和4年度 第15回部長会議 会議記録（要旨）

開催日時：令和5年3月23日（木） 13時00分から14時50分まで

開催場所：A301-302会議室

出席者：佐藤市長、高田副市長、熊谷教育長、原田総務部長、塚平企画部長、塚平市民協働環境部長、串原産業経済部長、今産業経済部参事、米山建設部長、毛利建設部参事、田中危機管理部長、土屋上下水道局長、齊藤市立病院事務局長、北原会計管理者、和泉議会事務局長、松下教育委員会参与、下平リニア推進課長、林福祉課長、佐々木財政課長、小室秘書課長、小椋南信州広域連合事務局次長、林企画課長

会議内容

1 理事者あいさつ

＜市長＞

- ・第1回定例会について、議員の皆さんといろいろなやりとりがあり、業務の参考になる事柄が非常に多くあった。部長会議のメンバーは、国でいうところの閣僚であり、自分の業務範囲だけでなく飯田市、飯田市役所全体をどうすれば良いかの視点を常に持っていただきたい。議会や市民の皆さんからいただく意見は、全体のこととして、どうするのが良いか一緒に考えていきたい。
- ・WBCにおける栗山監督のリーダーシップは、非常に学ぶべきものがあつた。栗山監督と縁ができた自治体として、改めてWBCから学ぶことを共有しておきたい。
- ・退職される部局長においては、一年間、部長会議のメンバーとして大変お世話になった。この一年間で市政をまた一歩前へ進めることができたことに感謝を申し上げる。今後もそれぞれの立場で市政を応援していただきたい。

＜副市長＞

- ・水道料金の改定について、運営審議会から答申をいただくと、市がしっかりとその答申を受け止めてどうしていくかを考えていかなければいけない。年度を跨ぐかもしれないが、市として全部長が納得した上で方向性を出していきたい。
- ・部長面談が始まる。部課長の評価について面接をすることになるためよろしくお願ひしたい。

＜教育長＞

- ・WBCで活躍した大谷選手は、小学校の道徳の教科書に「夢を実現させるためには」として載っている。その中で取り上げられているのが、目標達成シートという9つのマスの中心に目標を立て、その周りに目標に向けて何をするかを書いていくもの。大谷選手の高校時代には、「ドラフトと1位で8球団から指名をうける」という目標を立て、体づくりでは食事を朝7杯、夜3杯食べることやサプリメントを飲むなど具体的な取組を書いている。WBCに試合を見ると、達成しているなど感じた。自分自身も4月に立てた目標をしっかりと達成できているのか、しっかりと考えなければいけない。

2 協議事項

(1) 新文化会館整備検討に関する庁内プロジェクトチームの設置について

◇趣旨

新文化会館整備検討に関する庁内プロジェクトチームの設置について確認する。

◇意見

(市長)

- ・市民検討委員会との関係はどのようになるのか。

(文化会館長)

- ・市民会議では、現在、基本理念を形にさせていただいている。原案は事務局で考えることになるが、基本構想の検討をいただく。整備場所については、意見をいただくこともあるかもしれないと考えている。

(市長)

- ・庁内プロジェクトチームの主な役割はなにか。

(教育委員会参与)

- どこに向かってどういったまちづくりに生かされるための施設になるかの議論は、市民の皆さんから広く意見を聞いて、絞り込みをして方向づけしていきたいと考えている。プロジェクトチームは、行政側の事務局機能を補強することが目的である。場所の選定についても、いくつかの候補地を決めていくにあたっての仔細の情報収集や判断材料を集めるなどが必要となる。教育委員会で持っている情報や動きだけでは困難であるため、総動員して補強していただきたい。
- 整備基本計画を検討していくことになると、施設のユニバーサルデザイン等の視点から検討が必要となることため、部局横断的に協力していただきたい。

(市長)

- 例えば、子どもを含めて人が常時出入りするような施設が良いということになれば、車でなければ行けない場所ではないということになる。場所の話は、基本理念、基本構想、施設のあり方等、全部つながってくることからすると、場所についてフィージビリティがあるかを結構なスピードで検討しないといけない。基本構想が令和5年度の年度末までに決まってくるとすると、庁内会議はもっと時間がないことになる。

(教育委員会参与)

- 整備検討委員会の委員の皆さんは理想形についてご意見をいただく。プロジェクトでは、理想を追求しつつ、現実落とし込むという作業になってくる。体制をしっかりと作って進めていきたい。

(市長)

- 何を取捨選択していくかの判断の前提となる情報を庁内で整理した上で提供し、習練していくとすると、それほど時間があるわけではない。土地の調査結果の時期を見定めながら庁内会議を行う予定か。

(教育委員会参与)

- 本日も認めいただければ、まずは産業経済部と建設部を中心として調整させていただくことになるが、さっそくに行っていきたい。

3 報告事項

(1) 公用車の事故状況及び飲酒運転根絶の取組について

◇趣旨

公用車の事故状況及び飲酒運転根絶の取組について報告する。

(2) 本庁舎A棟1階 福祉事務所執務室の狭隘解消について

◇趣旨

本庁舎A棟1階 福祉事務所執務室の狭隘解消について報告する。

(3) 飯田市ケーブルテレビ事業の民間サービスへの移行について

◇趣旨

飯田市ケーブルテレビ事業の民間サービスへの移行について報告する。

(4) DX人材の育成に向けた基礎調査の実施報告について

◇趣旨

DX人材の育成に向けた基礎調査の実施報告について報告する。

◇意見

(市長)

- 市役所のDXが進んだ状態とは、どういうことを指すのか。

(デジタル推進課長)

- 地域課題を解決するためのDX手法の案件が事業として出てこないという印象がある。課題を掘り起こして、市民の生活が便利になり、暮らしが楽になることについて考えていけるDX人材を育てていかなければいけない。

(市長)

- 他市の事例など、分かりやすいものはあるか。共通のイメージが持っていない。

(デジタル推進課長)

- ・公共交通の分野だとMaaSという、交通弱者の交通利用をどのように確保するかという視点から自動運転の技術を取り入れるなどの取組がある。また、それを核として交通網を作るためのデータを収集する部分を一緒に行うなどもある。伊那市ではドローンを使って物品の配達を行っている。スマート農業という農業の散布を自動化するなどもあり、取組事例は様々なものがある。

(企画部長)

- ・なんらかの課題があるときに、新しい技術や発想で、改革していくことに思い至るかどうか。それは、知識や意欲がないと思えないため、そういった意欲ある人材を育成していきたい。

(市長)

- ・何かを成し遂げようとするための人材育成だが、何を成し遂げようとしているかがまだ分からない。

(企画部長)

- ・何を成し遂げようとしているかを示すものではない。何かを成し遂げなければいけない事象は世の中に多く存在しており、それらを拾い上げる力を育成するという。課題を見つける力は、行政に携わる者としてみんな持っている力であるが、課題をデジタル技術により解決する力は、知識がないとできない。

(市長)

- ・活用するもの自体が何か分からないなか、活用する力の有無を評価されてもどうなのか。

(議会事務局長)

- ・情報リテラシーを高めていくことは分かるが、リテラシーが高まった職員と地域課題を結びつける手順が見えない。出口の道筋について検討が必要ではないか。

(デジタル推進課長)

- ・課題を掘り起こしていくという考え方を持つこと自体が必要である。課題には気づいているがデジタル技術を活用して解決していくことまで思い至らないということだと思うので、こうすれば出来るのではないかという考え方ができる人材を育てていく。

(企画部長)

- ・今回の調査では、問題は今日的な知識を確認するものだった。現在社会にある技術や産業界の最新ワードなどを知っていれば答えられる問題ばかり。そもそも知らない方が多かったが、日ごろからそういった新規の情報に触れることも必要。民間では普通に知られている知識が設問となっていたが、知らないことが多かったということ。そういう情報に対する姿勢の表れでもある。

(市長)

- ・市民の皆さんからすると、ものすごい勢いでマイナンバーカードを所得させられたが、それらの活用についての具体的な取組を進めていかなければいけない。

(デジタル推進課長)

- ・マイナンバーカードをどのように使っていくかについて、自分たちにできることは、行政手続きの中でどのように使えるようにしていくかの部分になる。便利だと感じてもらえれば、取得した意味があったと思ってもらえる。

(市長)

- ・書かない窓口の対象や、書かなくても良い申請書類がこれだけ増えるということや、自分たちの業務で申請書が不要になるのではないかという視点で、自分の業務を見直すということで良いか。

(デジタル推進課長)

- ・そういうことでもある。マイナンバーカードをこういう風に活用してみようという意見がどんどん出てくれば、検討することができる。なかなかそういった意見が出てこない。

(市長)

- ・自分が担当している行政手続きを、マイナンバーカードによりもっと簡単にできないのかという視点で考えると、具体的な内容を入口とした方が前に進んでいくのではないか。

(デジタル推進課長)

- ・そういったアプローチができるための下地も必要であると考えている。

4 その他、連絡事項

(1) 令和5年飯田市議会第1回定例会の反省について

(副市長)

- ・代表監査委員から本会議で指摘を受けたことは非常に残念である。様々な場面で再発防止策を徹底していかなければいけない。
- ・工事請負契約の変更に係る議案が2件出ていたが、変更事項に関係しない契約の相手方名まで説明する必要があったのかについては確認しておく必要がある。また、委員会で補足説明資料を出して説明しているが、

本会議ではその説明がなかった。説明の仕方については課題を感じている。

- 予算決算委員会における各常任委員会分科会で、事務事業進行管理表を使って説明しているが、議員からの指摘に答えられない場面があった。事務事業進行管理表の中身をしっかりと把握しておく必要を感じた。
- 予算決算委員会の後期全体会の座長報告、本会議での委員長報告が非常に丁寧に作られていて、審議の内容をきっちり伝えるという意味で良いことだと思った。ただその分量が多くなるため、チェックがしっかりできるような気をつける必要性を感じた。

(市民協働環境部長)

- 聞き取りから一般質問までの期間が空いてしまったため、聞き取りの内容と一般質問とで、質問項目は変わっていないが、導入部分が大きく変わってしまい、答弁がかみ合わないことがあった。対話をするよう心掛けてはいたが議員の想いと違う答弁となってしまい、申し訳ないことをしてしまったと感じている。

(市長)

- 聞き取りの時から、聞こうとしている内容が深まったり、変わったりすることは当然にある。一問一答であるため、柔軟に答えていく必要がある。

(企画部長)

- 部を超えてしまうと答えにくい部分もあると思うが、通告通りに質問をいただいている以上は、答える必要がある。聞き取りに応じていただいて丁寧に対応していただいているため、これ以上は難しい。
- 全体としては、見解の相違はあるものの、かみ合っていたと思う。
- 事務事業進行管理表の修正が多かった。
- 委員会での説明で、事務事業進行管理表に記載されている内容と説明が相当乖離している場面があった。要点を押さえて説明を行うこと。
- 分科会での質問の答弁で、検討が深まっていない課題について踏み込みすぎた答弁があったため、気を付けていただきたい。
- 一般質問で、残り時間が短い中答弁を求められたということもあるが、こちらの答弁で終わることは絶対にあってはならないこと。

(市長)

- 具体的なやり取りは、その部局の中の話ではあるものの、想像力を働かして、自分の部局において同様なことはないか考えていただきたい。例えば、昔から決まっている取組であっても、視点を変えたらもう少し歩み寄れることができないかといったことや、取組はしているものの知られていないことなどは多くある。一般質問の中にも多くの示唆があるため、想像力を働かせて聞いていただきたい。

(議会事務局長)

- 議案審査の質疑の中で、本来、質疑・意見は認められているが、ほとんどが要望となってしまうことがあった。各委員長にお話しをして、各議員に伝えていただくようにしたい。
- 予算決算委員会の前期全体会と後期全体会における質疑の内容のすみ分けについて、検討していきたい。

(副市長)

- 補足説明資料が多かった。どういうやり取りがあって補足説明資料を用意したのかを共有する必要があるのではないか。

(企画部長)

- スケジュール的には、委員会が始まる前に情報共有することは難しいため、終わった後にどのように情報共有するかは改めて検討する。

5 閉 会